



いたびっ  
**板櫃** <校訓>  
真理の探究  
自主躍進



令和5年12月13日(水)発行  
校長 栗原博巳  
北九州市小倉北区白萩町8番1号  
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>

自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～  
<目指す生徒像>  
① 「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)  
② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)  
③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)  
④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

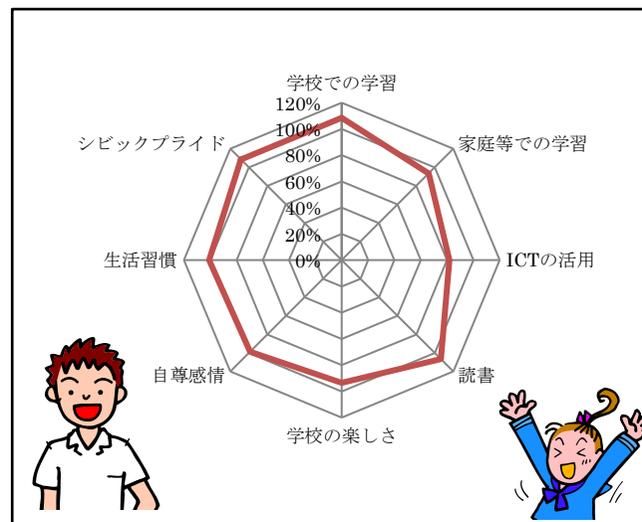
令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科	項目	内容	全国との比較
国語	全体的な傾向や特徴など	「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題の正答率は全国平均を上回っていましたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」に関する問題の正答率は全国平均を下回っていました。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題や、観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる問題の正答率が高い傾向にありました。	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題や、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題の正答率が低い傾向にありました。	
数学	全体的な傾向や特徴など	「関数」「データの活用」に関する問題の正答率は全国平均を上回っていましたが、「数と式」「図形」に関する問題の正答率は全国平均を下回っていました。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	累積度数の問題や、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題について、正答率が高い傾向にありました。	
	努力が必要な問題	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる問題について、正答率が低い傾向にありました。	
英語	全体的な傾向や特徴など	すべての領域において、正答率が全国平均を下回っていました。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題や、日常的な自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が高い傾向にありました。	
	努力が必要な問題	未来表現の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる問題や、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書く問題の正答率が低い傾向にありました。	

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



**質問紙調査の結果分析**

【よい傾向】(肯定的に回答が全国平均を上回った内容)  
○「国語の勉強が好きか」「読書が好きか」との問いに対して、どちらも約75%の生徒が肯定的に回答していました。  
○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」との問いに対して約70%、「学習した内容を見直し、次の学習につなげることができていますか」との問いに対して、約80%の生徒が肯定的に回答していました。  
【努力が必要な傾向】(肯定的に回答が全国平均を下回った内容)  
○授業におけるPC・タブレットなどのICT機器の使用頻度が全国平均を下回っていました。また、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との問いに対する肯定的回答も全国平均を下回っていました。  
○「学校に行くのは楽しいですか」との問いに対して、約75%の生徒が肯定的に回答しているものの、全国平均を下回っていました。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

ICT機器の使用頻度が全国平均を下回っていたことを受けて、朝自習の時間にGIGA端末を活用して学習アプリで自習を行う取組を始めます。また、今後も継続して、授業の中でICT機器やGIGA端末の活用を推進していくことで、生徒が視覚的に内容を理解し、主体的に学習に興味をもって取り組めるよう職員全体で教育活動を実践していきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

主に、定期考査前は学習計画表作りを行い、自らが見通しを立てて計画的に学習に取り組むよう指導しております。次の学習につなげるための学習内容の見直しを行っている生徒も多く、家庭学習の定着が見られます。

本資料は令和5年4月18日に3年生を対象にした「全国学力・学習状況調査」の結果に基づきまとめたものです。内容については板櫃中の3年生の結果ですが、1・2年生の生徒にも共通している内容が多いのではないのでしょうか。

学習(勉強)というものは、結果が出ないと子どもは迷うものです。しかし、スポーツや習い事と同じように、結果が伴うと勉強に対する考えは大きく変わります。これから求められている学力、つまり、「主体的な学び」のために必要なことは、子どもが頑張る努力を続けている間、しっかり見守ることだと思います。そして、学校でも家庭でも、頑張った結果が出たときに、すぐに褒めてやることだと思います。

学力や体力が大切なこと・・・それは、大人になって、人間関係を築くための基盤になることではないでしょうか。将来、子どもたちが大きくなったとき、地域や社会の中で、のびのびと育ってくれるように、全国学力・学習状況調査の分析結果をご一読いただき、成果と課題を私たち板櫃中教職員と共有していただければと考えております。

そして、お子様の学びについてこれからも一緒に考えていければと思います。今後ともよろしくお祈りいたします。